

# 下水道管渠の適正な管理手法に関する研究

(平成18～20年度 18年度予算額:25百万円)

## 目的

損傷・老朽化した下水道管渠を放置しておくと下水道の閉塞による使用不能や道路陥没などの社会生活への影響が懸念される。そのため、下水道管渠の維持管理状態を評価するための手法として評価指標を構築し、予防的維持管理により維持管理コストの低減化と下水道管渠の延命化を図る手法の開発を行う。

## 内容

清掃補修頻度、TVカメラ調査頻度、下水濃度など改築修繕時期に影響を及ぼす可能性のあるデータ項目について要因分析を行うとともに、陥没事故実績、老朽管渠の破壊試験及び土砂流入試験結果、改築修繕実績などについて総合的な分析を行い、下水道管渠を効率的に維持管理するための評価指標を抽出する。

## 効果

これまで主観的に行われてきた維持管理を、評価指標を用いて客観的に評価することにより、効率的で、合理的な管渠の維持保全が可能となり、道路陥没事故の低減、維持管理の効率化が図られる。また、他の社会資本全般における維持管理手法としての活用も期待できる。

